



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# 株式会社ビープレイクシステムズ ～ITベンチャー企業の立ち上げの軌跡～

5

2002年、7月。システム開発会社である株式会社ビープレイクシステムズ（以下、ビープレイクとする）は、銀行員を経て基幹業務システムのベンダーで会計コンサルタントであった白岩が中心となって設立された。後ろ盾もない状態でのスタートではあったが、これまでの経験から、自分たちで開発した製品を活用したシステム構築は多くの企業のニーズをとらえていると確信していた。

10

15

## 起業に向けて

白岩は高校生の頃から漠然と起業したいと考えていた。大学在籍中から同級生には「20代で会社を作つて独立する」と宣言していたため大学卒業後すぐに起業するという選択肢もあったが、大学卒業後は会社を経営するために必要なスキルが身につくところに就職しようと考え、熟慮の結果、銀行に入ることにした<sup>[1]</sup>。入行した都市銀行では、まず支店融資業務に従事し、その後プロジェクトファイナンス業務を行い、基礎的な業務の流れ、金融および会社経営に関する業務知識を身に付けた。次に、起業のビジネスモデルについてノウハウを獲得するため、自らの専門領域でもあるソフトウェアの会社に転職した。入社した外資系の基幹業務システムのベンダーでは会計モジュール導入コンサルタントとなり、化学メーカーや航空会社、コンビニ、製紙メーカー、

20

25

<sup>[1]</sup> 白岩は、「何事も本質や根本を理解してから動き出すという性格上、ノウハウやプランがまだ分からぬ状況での起業は考えられなかった」と当時を振り返っている。

このケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科（ビジネス・スクール）の教材とするために、慶應義塾大学大学院経営管理研究科准教授 高橋大志が作成した。ケース作成にあたり、株式会社ビープレイクシステムズ代表取締役 白岩次郎氏、同取締役 上川伸彦氏、同取締役 高橋明氏から貴重なコメントを頂いた。また、同社 木塚愛美氏からも、執筆にあたり多大な協力を頂いた。ここに記して感謝したい。  
なお、本ケースは、クラス討議のために作成したものであり、経営の巧拙を例示するためのものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30